

心はずませ 170人

6月25日 2016年入学式



司会する石井結衣さん

子ども大学かわごえの二〇一六年度の入学式が六月二十五日(土)午後一時から東京国際大学第1キャンパス3号館314教室でありました。開校九年目の第九期生は一七〇人。内訳は四年生五二人、五年生六八

人、六年生五〇人。この日の出席者は一六一人(四年生四九人、五年生六五人、六年生四七人)でした。それぞれ保護者が付いて参加しました。入学式の司会は学生の石井結衣さん(霞ヶ関南小6年)。はきははきした話方で「ただいまから入学式をはじめます」と開会宣言。はじめに遠藤克弥(えんどうかつや)学長が「入学おめでとうございませう。みなさんは学ぶ楽しさを存分に味わって、より高度な知識を、たくさん

好奇心を持って楽しく学ぼう 「知らないことを調べる探検を」



子ども大学学生新聞

第30号
子ども大学
かわごえ新聞部

未来に活躍する人間に

学んでください」とあいさつされました。つぎに来賓からお祝いの言葉をいただきました。毎年来てくださる川合善明(かわいよしあき)川越市長がアメリカ・オレゴン州の姉妹都市セーレム市の三〇年記念式に出席のため、代わりに坂東博之(ばんどうひろゆき)副市長があいさつ、「知らないことに疑問や興味を持ち、自分で調べる探検をしてください」と話されました。

浅子藤郎(あさこふじお)鶴ヶ島市教育長は「しっかりと学んで、未来に活躍できる人になってください」と、学生をほげまされました。

久保公人(くぼきみと)尚美学園大学理事長・学長は有名な科学者アインシュタインは『特別の才能はなかった。好奇心があっただけ』と言いました。みなさんも好奇心を持ちつつづけて、ゆたかな人生を送ってください」とあいさつされました。

このほか来賓として参列した新保正俊(しんぼまさとし)川越市教育長、長谷部洋志(はせべひろし)川越市教育委員、会地域教育支援課長、横山武仁(よこやまたけひと)鶴ヶ島市教育委員会参事、司会者から紹介されました。

学んだことを親子で話し合おう

つづいて、小野翔(しょう)君(仙波小6年)が学生を代表して、つぎのようないいさつをしました。

「皆さん、入学おめでとうございませう。ぼくは今年で3回目の入学式です。子ども大学かわごえでは、ぼくたちは自ら学びに来るものとして「学生」と呼ばれ、自主性を求められます。ぼくが初めて入

学した年には、大学という広いキャンパスの中で迷ってしまい、教室をうまく見つけられなかったことがありました。皆さんはぜひ、子ども大学かわごえのホームページを利用して、授業の内容と合わせて忘れずに確認するようにしてください。



あいさつする小野翔くん

それから、ここでの授業は少し難しいことも出てきますが、自宅でお父さんお母さんと意見交換をするなどして、親子でいろいろなことを考えたり話し合えるとういと思えます。

ここでは、ぼくたちが通っている小学校では経験できないようなことが、たくさん待っています。これから始まる1年間を、ともに楽しく、積極的に学んで行きましょう」

最後に校歌を全員で歌って、入学式は終わりました。

(秋山花那記者 鶴ヶ島一小5年)

☆新聞部員はこう思う

新聞部は、新しい部員を募集(ぼしゅう)しています。取材して記事を書く楽しい仕事ですよ。毎月一回、日曜日に蓮馨寺で編集会議を開いています。入部したい人は、きょう授業が終わってから、一番前の席に集まってください。

子どものころから宇宙に興味



松本零士先生 「火星に行ってみたかった」

入学式のあと、マンガ家、松本零士先生の「銀河鉄道999 ミッション2016 私たちの宇宙「いち」への旅立ち」という授業がありました。

松本先生は小学生くらいからマンガをかいていたそうです。その頃から宇宙に興味をもつていて、宇宙もののマンガが多かったそうです。そのあと、金星の写真を見せながら、金星は気圧が上がり下がりしていて、表面温度は一五〇〜一六〇度なのだと

う話をされました。次に松本先生は昔のことを話されました。子どものころは山の中腹に住み、炭焼きをして暮らしていて、最初にかいたマンガは「火星あくま」や「透明人間」などだそうです。

大きくなったら大学に行つて、機械工学部で宇宙船やロケットをつくり、火星へ行きたくつたそうです。しかし、自分は機械工学部へ行けず、弟が機械工学部に行つてロケットづくりをしていて、自分の夢を叶えてくれたと話されました。元気に生活するために生活パターンをつくり、運動をしっかりとすることがとても大事であり、若いときから運動すれば長生きできる、また、生き方を好きな

ことに結びつけて、目的意識を持つことが大切だと話されました。一時間目の最後に、学生からの質問にも答えてくださいました。

最初の質問は「いつから宇宙が好きになったのですか」「幼稚園くらいからです。次の質問は「好きな星は何ですか」「火星が好きで、本当は火星に行く予定でした。飛行機のそうじゅうは、離陸か



ら着陸までできますよ。「なぜマンガ家になったのですか」「未来への夢や想像をかこうとしました。体験をもとに、いろいろかいていくのが大事です」と話されました。(中島七虹記者 中央小6年)

自分の目で見たことが大事

一時間目、松本先生はこう話されました。マンガ家は徹夜することも多い仕事。子どものときには運動することが大事です。それが自分を支える力となりました。運動しない人は長生きできない。六十歳を過ぎてからの体力がちがいます。

松本先生は、ありとあらゆることをやつてこられました。自分で見たものや体験したことは、マンガで描くと全然ちがいます。実際の距離感など写真資料では伝わらないものもあるので、自分の目で見るのが大事と話されました。宇宙にいる若田光一さんからは、電話があつたとき、時間差がなく話ができ驚きました。

アニメーションには国境がなくなりました。だから相手の国の宗教や民族感情を傷つけないことが大事です。国境はあるけれど、我々はみな地球人だ、人類が一体となって乗り越えていこう。今日の授業を聞いてくれてるだけだが、そういう作品をアニメでも漫画でもいいから描いてほしいですね。

松本先生の漫画をもつと読んでみたいです。(関根英瑠麻記者 古谷小6年) 松本先生は授業の途中で、「いん石やいん鉄を学生たちに持たせて「重いだろう」と言われました。最後に紙にマジックでハローックの顔や自分のサインをかいて画面に映しました。「目の表情はきちんとかくこと」と話されました。

☆松本先生にインタビュー

- Q 子どものころ好きだったマンガ家は？
- A 水木しげる、手塚治虫、ウォルト・ディズニーですね。
- Q 先生のかかれるマンガのキャラクターに共通点がありますか？
- A 目的、志をもつて自由に生きる人物。私たちに伝えたいことは何ですか？
- Q 一人一人が目的をもって、それに向かつて、あきらめずに、がんばつて

生きてほしいですね。(篠崎仙太郎記者 中央小6年、奈村晴冬記者 高階小5年)

☆記者の授業感想

◇石井結衣記者 霞ヶ関南小6年
松本零士先生の授業を受けて、たくさんを経験することの大切さが分かりました。たとえばライオンとけつとうしたり、アマゾン川を泳いだり、ワニとけつとうしたことや、古代遺跡マチュピチュの頂上までのぼつたり、いろいろなことを体験し、それを絵に描いたそうです。

松本先生は写真で見えたものを絵に描くのではなく、実際に自分の目で見ることを大切にしていることが分かり、すごい人だなあと感じました。マンガ家になったのは、自分の未来の夢、想像を描きたかつたからだそうです。なので私も目的を持ちながら物事に取り組みもうと思いました。

◇奈村晴冬記者 高階小5年
金星の表面が、あんなに地球みたいで、びっくりしました。最初に見たときは、「ここはどこだろう？」と思い、一生懸命考えました。

◇秋山花那記者 鶴ヶ島一小5年
わたしは松本先生の話を聞いて、まず思ったのが「松本先生は本当に宇宙が好きなんだなあ」ということでした。先生は驚くことを言っていました。それは「金星は未来の地球」ということです。私としてもびっくりしました。

最後に先生が絵をすらすら描きました。私もそんな風に描けるようになりたいです。